

名軍師 黒田官兵衛

④

一龍齋貞花

講談師

大河ドラマ「黒田官兵衛」のナレーションが暗く声もくぐもり悪評だった。女優から女子アナに代り聴きよくなった。

私たち話芸の者は勿論、営業に携わる方、特にプレゼンには明解な話し方が大切ですね。

信長に背いた荒木村重を説得に赴いた官兵衛は、有岡城の土牢に幽閉され、陽もささぬ牢の中で耐えること一年。

天正7年、織田軍は有岡城を包囲。「心配致すな、毛利の援軍が今に参る。それ迄の辛抱じゃ」と、言い続けているが援軍は一向に来ない。

それどころか、村重の両翼たる高槻城の高山右近、茨木城の中川清秀が信長に寝返った。村重は一夜ひそかに城を出ると花隈城へと落ちていった。大將が逃げ出したので、城から逃げ出す者、敵に内通する者も出る有様。遂に織田軍の総攻撃がはじまった。

栗山善助、母里太兵衛以下官兵衛の家来数人、織田勢の中にまぎれ込み城内へ押し入り獄舎を探し廻る。

「土牢と聞いたが、どこだ」
火の手が土牢にも迫ってきた。官兵衛は壁にもたれ空しく坐っていた。容易に立てない程衰弱し、全身に湿疹が出来、片足は曲っていた。

「とうとうここで焼け死ぬか。わしが帰らぬからあの信長殿のこと、人質となつている松寿の首はねられたことであろう。思えば不憫な者よ」

流石の官兵衛も諦めの気持ちで目を閉じた。途端牢格子を打ち壊し家来たちが飛び込んできた。

「殿、お助けに参りました」

「オ…オ…」

言葉にならぬ言葉を発する官兵衛。

「よし、わしが背負つて城外へ駆け抜けるぞ」

太兵衛が枯木のような官兵衛を背負うと両軍入り乱れて乱戦の中、斬り掛つてくるのをなぎ払い、燃え盛る炎の中必死で城外へ。

官兵衛救出、鬼の目に涙

「ナニツ、官兵衛は今日まで城中に捕われていたのか」

戸板に乗せられて運ばれてきた官兵衛の足の関節は曲り、髪の毛は抜けて禿頭、見るも無残な姿に流石の信長も胸が痛む。

「官兵衛許せ、そちの松寿を信長が命じて首討させた。怨むかわしを」

「なんの、お恨みはございませぬ」
「愛おしかろう、嫡子なれば尚更に」

「親として代つてやりたかった程の不憫を覚えますが、戦国のならい、天下統一の大業にはほんの小

石であつたと、時には思うて頂けますならば、これに勝る慰めは御座いませぬ」

「そう言ってくれると信長、尚更につらいぞよ」

鬼ともいわれた信長の目に詫びる涙が光つておりました。

「孝高殿、ご無事で」

「おう、重治殿」

「父上！」

「ウム、そちや松寿、松寿ではないか、これはなんとしたこと」

「半兵衛様のお蔭で……」

顔白くやせ細つた半兵衛がニコニコ笑っている。

「忝い。このご恩は一生忘れません、半兵衛殿」

よるよると起き上がるや半兵衛の手をしつかりと握つた。

「よかつた、よかつた」

ニココリ微笑む半兵衛。二人の絆は一層強まったので御座いました。

「この上は、私のご処分を」という半兵衛を信長は処罰するどころか、

「官兵衛、近くの有馬の湯にて療養いたせ、お松ここへ来い、あれ程

の父を持ち、これ程の恩師を持ち
そちは幸せ者ぞ、定めし行末よい
武勲を立てるであろう。重治につ
いて中国へ行け。信長がそちの初
陣を祝うてとらせん」

自身の脇差を松寿丸に授けたの
で御座いました。

有馬で湯治していた官兵衛は、
十日程でひよこたん、ひよこたん
一人で歩けるようになり、二十日
目には、

「まだ三木の城は落ちておらん、わ
しは中国へ行く、馬曳け」

「そのお身体では……」と家来の止
めるも聞かず三木攻めの陣中へ。
「よう来たな」「殿!」「よくぞ官兵
衛殿」

夜の更けるも忘れ語り合う主従
3人。

「半兵衛殿、お身体は如何ですか」
「所詮不治の病、得難い主人と友を
持ち、三十五歳迄生きてこられた
ので未練はありません」

松寿丸を伴って秀吉の元へ帰っ
た半兵衛の病は進んでいた。遂に
病の床に、

「最早お別れの時が来たようです」

「そちに別れるのは闇夜に灯りを失
うような心地がするぞ、師とも仰
ぎ秀吉の片腕とも頼んでいたのに、
先に逝くとはつれないぞよ、重治
……」

「重治亡き後は孝高殿がおられま
す。呉々も信長公にはお気を許さ
れませぬよう。アア月白く風清し、
この世は誠に美しいところ、先の
旅路はどんな月夜やら」

とつぶやくや静かに目を閉じた
ので御座いました。

天正7年6月13日。年こそ違え、
明智光秀が土民の手にかかり落命
したのも、3年後の6月13日とし
た。足軽小者に到るまで、その死
を惜しまぬ者はありませんでした。
諸葛孔明の再来をうたわれた竹中
半兵衛、36歳の短い生涯でありま
した。

織田の総攻撃に村重は逃げ出し、
信長は残った村重の妻子はもとよ
り、召使いの女まで五百余人を処
刑。裏切りに対する見せしめとは
いえ、余りに過酷な行為でした。

半兵衛亡き後、官兵衛が名軍師
ぶりを発揮するお話は次回に。

電線総合商社



泉州電業株式会社

(東証第2部上場)

<http://www.senden.co.jp>

本社 大阪市北区兎我野町2-4 TEL(06)6312-0945

本店 大阪府吹田市南金田1-4-8 TEL(06)6384-1102

札幌支店 札幌市東区東苗穂6条3-11-1 TEL(011)782-7511

仙台支店 仙台市宮城野区扇町7-3-12 TEL(022)354-7001

東京支店 東京都品川区東品川1-11-4 TEL(03)5463-8511

名古屋支店 名古屋市西区中小田井4-185-5 TEL(052)504-1139

津田センター 滋賀県草津市青地町305-1 TEL(077)564-1200

広島支店 広島市南区出島1-32-39 TEL(082)253-5221

高松支店 高松市朝日新町32-34 TEL(087)826-3333

福岡支店 福岡市博多区吉塚4-7-18 TEL(092)611-3121

東京西営業所 東京都八王子市宇津木町694-1 TEL(042)696-5557

東京東営業所 千葉県柏市十倉2-313番地169 TEL(04)7197-1452

埼玉営業所 さいたま市北区吉野町1-438-9 TEL(048)668-0894

北國物流センター 栃木県宇都宮市江曾島町1029-1 TEL(028)684-1766

豊橋営業所 豊橋市西幸町古並51-24 TEL(0532)39-1570

高岡営業所 富山県高岡市野村1644 TEL(0766)22-0593

大阪南営業所 大阪府松原市岡6-3-24 TEL(072)349-8261

京滋営業所 京都府八幡市上津屋八王子120 TEL(075)972-3100

SENSHU ELECTRIC (THAILAND) CO., LTD.
Rojana Industrial Park 68 Moo 9 Tambol Thanu Amphur U-Thai
Ayutthaya THAILAND TEL(663)533-0202

SENSHU ELECTRIC INTERNATIONAL CO., LTD.
90 Cyberworld Tower 17th Floor, Room 1704B, Ratchapisek Rd,
Huay Kwang, Huay Kwang, Bangkok 10310.
THAILAND TEL(662)168-3224

上海泉秀国際貿易有限公司
上海市長寧区仙霞路322号 鑫达大厦2101室 TEL(86)21-6278-0502